

第二十条 法人ノ代表者カ前條第二項ノ規定ニ從ヒ主務官廳ノ認可ヲ得タルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 民法第四十六條第一項第一號乃至第三號及ヒ第五號乃至第八號ニ掲ケタル事項
- 二 主務官廳ノ認可ノ年月日

前項ノ期間ハ主務官廳ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記ハ民法第四十六條第一項ニ定メタル登記ト同一ノモノト看做ス

第二十一条 第十九條第一項ノ法人カ財産目錄又ハ社員名簿ヲ備ヘサルトキハ民法施行ノ後遲滯ナク之ヲ作ルコトヲ要ス

第二十二条 法人ノ代表者カ前二條ノ規定ニ反シ認可ヲ受ケ、登記ヲ爲シ又ハ財産目錄若クハ社員名簿ヲ作ルコトヲ怠リタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十三条 第十九條第一項ノ法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ認可ノ條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其解散ヲ命スルコトヲ得

第二十四条 民法ノ規定ニ依リ法人ニ關シテ登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十五条 主務官廳カ正當ノ理由ナクシテ法人ノ設立許可ヲ取消シ又ハ其解散ヲ命シタルトキハ其法人ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六条 法人ノ清算人カ民法第七十九條及ヒ第八十一條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七条 剝奪公權者及ヒ停止公權者ハ法人ノ理事監事又ハ清算人タルコトヲ得ス

第二十八条 民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社、寺院、祠宇及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セス

第二十九条 民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル債權ハ時効ニ因リテ消滅シタルモノト看做ス

〔判例〕

●民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル債權ニ付キ辨濟ノ事實ヲ申出サルモ出訴期限ヲ採用シタル以上ハ民法施行法第二十九條ニ基キ消滅時効ヲ適用スヘキモノトス(三十二年九月二十六日第一民事部判決同年第七十三號)

第三十条 民法施行前ニ出訴期限ヲ經過セサル債權ニ付テハ民法中時効ニ關スル規定ヲ適用ス

第三十一条 民法施行前ニ進行ヲ始メタル出訴期限カ民法ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但其殘期カ民法施行ノ日ヨリ起算シ民法ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ其日ヨリ起算シテ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十二条 前條但書ノ規定ハ舊法ニ出訴期限ナキ權利ニ之ヲ準用ス

第三十三条 前三條ノ場合ニ於テ民法中時効ノ中斷及ヒ停止ニ關スル規定ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第三十四条 第二十條乃至第三十二條ノ規定ハ時効期間ノ性質ヲ有セサル法定期間ニ之ヲ準用ス

第三章 物權編ニ關スル規定

第三十五条 慣習上物權ト認メタル權利ニシテ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ後ハ民法其他ノ法律ニ定ムルモノニ非サレハ物權タル效力ヲ有セス

第三十六条 民法ニ定メタル物權ハ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ有ス

第三十七条 民法又ハ不動産登記法ノ規定ニ依リ登記スヘキ權利ハ從來登記ナクシテ第三者ニ對抗

スルコトヲ得ヘカリシモノト雖モ民法施行ノ日ヨリ一年內ニ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第
三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十八條 民法施行前ヨリ占有又ハ準占有ヲ爲ス者ニハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十九條 民法施行前ヨリ動産ヲ占有スル者カ民法第百九十二條ノ條件ヲ具備スルトキハ民法ノ
施行ト同時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第四十條 遺失物ハ明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則第二條ニ依リ揭示ヲ爲シタル後一年內
ニ其所有者ノ知レサルトキハ民法施行前ニ其榜示ヲ爲シタルトキト雖モ拾得者其所有權ヲ取得ス
但漂著物ニ付テハ明治八年第六十六號布告内國船難破及漂流物取扱規則ノ規定ニ從フ

第四十一條 埋藏物ニ付テハ特別法ノ施行ニ至ルマテ遺失物ト同一ノ手續ニ依リテ公告ヲ爲スコト
ヲ要ス

第四十二條 民法施行前ヨリ民法第二百四十二條乃至第二百四十六條ノ規定ニ依レハ所有權ヲ取得
スヘカリシ狀況ニ在ル者ハ民法ノ施行ト同時ニ民法ノ規定ニ從ヒテ所有權ヲ取得ス但第三者カ正
當ニ取得シタル權利ヲ妨ケス

第四十三條 共有者カ民法施行前ニ於テ五年ヲ超ユル期間内共有物ノ分割ヲ爲ササル契約ヲ爲シタ
ルトキハ其契約ハ民法施行ノ日ヨリ五年ヲ超エサル範圍内ニ於テ其效力ヲ有ス

第四十四條 民法施行前ニ設定シタル地上權ニシテ存續期間ノ定ナキモノニ付キ當事者カ民法第二
百六十八條第二項ノ請求ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ設定ノ時ヨリ二十年以上民法施行ノ日ヨリ五
十年以下ノ範圍内於テ其存續期間ヲ定ム

地上權者カ民法施行前ヨリ有シタル建物又ハ竹木アルトキハ地上權ハ其建物ノ朽廢又ハ其竹木ノ
伐採期ニ至ルマテ存續ス

地上權者カ前項ノ建物ニ修繕又ハ變更ヲ加ヘタルトキハ地上權ハ原建物ノ朽廢スヘカリシ時ニ於
テ消滅ス

【判例】

●民法施行法第四十四條第一項ハ民法施行前ニ設定シタル地上權ニシテ存續期間ノ定メナキモ
ノニ付キ當事者ヨリ民法第二百六十八條第二項ノ請求アリタル場合ニ裁判所カ其存續期間ヲ定
ムヘキ標準ヲ示シタルモノナルモ第二項ハ建物ノ朽廢又ハ竹木ノ伐採期ニ至ルマテヲ以テ存續
期間ノ定メタルモノニシテ存續期間ヲ定ムヘキ標準ヲ示シタルモノニ非ス (三十五年(オ)第四百四
二民事
部判決)

●民法施行前ニ設定シタル地上權ニシテ期間ノ定メナキモノニ付テハ地上權ノ設定ヲ知ラスシ
テ其土地ヲ買受ケタルモノアルモ民法施行法第四十四條第二項ニ依リ之カ地上權ハ其建物ノ朽
廢ニ至ルマテ存續スヘキモノナリ (三十二年九月二十九日第
二民事部判決同年第六號)

●民法施行法第四十四條第一項第二項ハ民法施行前ノ設定ニ係ル地上權ニシテ存續期間ノ定メ
ナキモノニ付キ其當事者ヨリ存續期間指定ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所ハ之ヲ定ムヘキ
標準ヲ示シタルモノナリ (三十二年十二月二十二日
第二民事部同年第百貳號)

●民法施行法第四十四條ノ規定ハ慣習ノ存在スル場合ニ適用スルコトヲ得ス (三十二年十二月二十二
日第百
二號)

第四十五條 外國人又ハ外國法人ノ爲メニ設定シタル地上權ニハ條約又ハ命令ニ別段ノ定ナキ場合
ニ限り民法ノ規定ヲ適用ス(三十四年法律第三十九號ヲ以テ廢止)

第四十六條 民法第二百七十五條及ヒ第二百七十六條ノ期間ハ民法施行前ヨリ同條ニ定メタル事實
カ始マリタルトキト雖モ其始ヨリ之ヲ起算ス

第四十七條 民法施行前ニ設定シタル永小作權ハ其存續期間カ五十年ヨリ長キトキト雖モ其效力ヲ存ス但其期間カ民法施行ノ日ヨリ起算シテ五十年ヲ超ユルトキハ其日ヨリ起算シテ之ヲ五十年ニ短縮ス

民法施行前ニ期間ヲ定メスシテ設定シタル永小作權ノ存續期間ハ慣習ニ依リ五十年ヨリ短キ場合ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ五十年トス

民法施行前ニ永久存續スヘキモノトシテ設定シタル永小作權ハ民法施行ノ日ヨリ五十年ヲ經過シタル後一年内ニ所有者ニ於テ相當ノ償金ヲ拂ヒテ其消滅ヲ請求スルコトヲ得若シ所有者カ此權利ヲ拋棄シ又ハ一年内ニ此權利ヲ行使セザルトキハ爾後一年内ニ永小作人ニ於テ相當ノ代價ヲ拂ヒテ所有權ヲ買取ルコトヲ要ス(二十三年法律第七十一號ヲ以テ本項追加)

第四十八條 民法ノ規定ニ從ヘハ民法施行前ヨリ先取特權ヲ有スヘカリシ債權者ハ其施行ノ日ヨリ先取特權ヲ有ス

第四十九條 民法第三百七十條ノ規定ハ民法施行前ニ抵當權ノ目的タル不動産ニ附加シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第五十條 民法第三百七十四條ノ規定ハ民法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス但民法施行ノ日ヨリ一年内ニ特別ノ登記ヲ爲シタル利息其他ノ定期金ニ付テハ元本ト同一ノ順位ヲ以テ抵當權ヲ行フコトヲ得

〔回答〕

○民法施行法第五十條ノ規定ハ民法施行後ニ成立シタル債權ニシテ其利息ノ同法施行後ニ生シタル分ニ付キ抵當權ノ效力ヲ定メタル法意ニシテ其施行前ノ利息ニ及ボスノ法意ニアラス(明治卅四年(オ)第五百六十三號同卅五年五月十四日第二民事部判決)

第五十一條 民事訴訟法第六百四十九條第二項及ヒ第三項ヲ改メテ左ノ三項トス

不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス

留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

質權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

第四章 債權編ニ關スル規定

第五十二條 明治十年第六十六號布告利息制限法第三條ハ之ヲ削除ス

第五十三條 民法施行前ヨリ債務ヲ負擔スル者カ其施行ノ後ニ至リ債務ヲ履行セザルトキハ民法ノ規定ニ從ヒ不履行ノ責ニ任ス

前項ノ規定ハ債權者カ債務ノ履行ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受クルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第五十四條 民事訴訟法第七百二十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

第五十五條 民事訴訟法第七百二十四條ヲ左ノ如ク改ム

債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲サザルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス

第五十六條 金錢ヲ目的トスル債務ヲ負擔シタル者カ民法施行前ヨリ其履行ヲ怠リタルトキハ損害賠償ノ額ハ其施行ノ日以後ハ民法第四百四條ニ定メタル利率ニ依リテ之ヲ定ム但民法第四百十九條第一項但書ノ適用ヲ妨ケス

第五十七條 指圖證券、無記名證券及ヒ民法第四百七十一條ニ掲ケタル證券ハ公示催告ノ手續ニ依リテ之ヲ無効ト爲スコトヲ得

第五十八條 民法施行前ニ發生シタル債務ト雖モ相殺ニ因リテ之ヲ免ルルコトヲ得

雙方ノ債務カ民法施行前ヨリ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタルトキハ相殺ノ意思表示ハ民法施行ノ日ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第五十九條 民法第六百五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル不動産ノ貸借ニモ亦之ヲ適用ス

第六十條 第四十五條ノ規定ハ外國人又ハ外國法人ニ土地ヲ貸借シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條 刑法附則第五十四條乃至第六十條ハ之ヲ削除ス

第五章 親族編ニ關スル規定

第六十二條 民法施行ノ際家族タル者ハ民法ノ規定ニ依レハ家族タルコトヲ得サル者ト雖モ之ヲ家族トス

家族ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ戶主權ニ服ス

〔回答〕

○私生子ハ母ノ承諾ナキ場合ト雖モ父ノ認知ニ依リ父ノ家ニ入ルコトヲ得ヘク施行法第六十三條ハ此場合ニ適用スヘキ規定ニアラス(明治卅二年十一月九日何同月十一日民刑第一九八號回答)

第六十三條 民法ノ規定ニ依レハ父又ハ母ノ家ニ入ルヘキ者ト雖モ民法施行ノ際他家ニ在ル者ニハ

其規定ヲ適用セス

第六十四條 民法施行前ニ隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リ隱居ヲ爲シ又ハ相續ヲ承認シタルトキハ民法第七百五十九條ノ規定ニ依リテ之ヲ取消スコトヲ得但第三十二條及ヒ第三十四條ノ適用ヲ妨ケス

民法第七百六十條ノ規定ハ民法施行前ニ家督相續人ノ債權者ト爲リタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第六十五條 民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組カ其當時ノ法律ニ依レハ無効ナルトキト雖モ民法ノ規定ニ依リ有效ナルヘキトキハ民法施行ノ日ヨリ有效トス

第六十六條 民法第七百六十七條第一項ノ期間ハ前婚カ民法施行前ニ解消シ又ハ取消サレタルトキト雖モ其解消又ハ取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

〔判例〕

第六十七條 民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ノ原因タルヘキトキハ其婚姻又ハ養子縁組ハ之ヲ取消スコトヲ得但其事實カ既ニ民法ニ定メタル期間ヲ經過シタルモノナルトキハ此限ニ在ラス

●民法施行法第六十七條ハ民法ニ依リ養子縁組取消ノ原因トナルヘキ事實ニシテ民法施行以前ニ於テモ取消ノ原因トナリシモノニ限り其ノ取消ノ請求ヲ爲スコトヲ許ルスノ法意ナリトス(三十五年十月三日第一民事部判決同年十一號)

〔回答〕

○民法施行前ニ於ケル姪ノ婚姻ハ民法第七百八十條及ヒ民法施行法第六十七條ニ依リ當事者其戶親族又ハ檢事ヨリ婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖モ戶籍吏ニ於テ之ニ關涉スヘキモノニアラス(民七八〇條參照)(明治三十一年十二月十四日何同三十二年三月五日民刑第二二〇九號回答)

第六十八條 民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組ト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル効力ヲ生ス

〔判例〕

●民法施行法第六十八條ハ民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組ハ民法施行ノ日ヨリ以後ニ非サレハ民法ニ定メタル効力ヲ生セサルコトヲ規定シタルモノトス(三十二年十月五日第一民事部判決同年第八十三號)

〔回答〕

○民法施行前ニ養子縁組ヲ爲シタルトキト雖モ養子ハ民法第八百六十八條ノ規定ニ從ヒ(民法施行法第六十八條)縁組ノ日ヨリ嫡出子タルノ身分ヲ取得ス(明治三十六年二月十二日同同年四月七日民刑第一六三號回答)

第六十九條 民法施行前ニ婚姻ヲ爲シタル者カ夫婦ノ財産ニ付キ別段ノ契約ヲ爲ササリシトキハ其財産關係ハ民法施行ノ日ヨリ法定財産制ニ依ル

民法施行前ニ夫婦カ其財産ニ付キ契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ婚姻届出ノ後ニ爲シタルモノト雖モ其効力ヲ存ス但其契約カ法定財産制ニ異ナルトキハ民法施行ノ日ヨリ六个月内ニ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十條 民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ離婚又ハ離縁ノ原因タルヘキトキハ夫婦又ハ養子縁組ノ當事者ノ一方ハ離婚又ハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第六十七條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十一條 嫡出ノ推定及否認ニ關スル民法ノ規定ハ民法施行前ニ懐胎シタル子ニモ亦之ヲ適用ス

第七十二條 子ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ父又ハ母ノ親權ニ服ス

〔回答〕

○民法施行前父又ハ母ハ或理由ニ依リ其子ノ後見人タラスシテ他ニ後見人アルトキト雖モ民法施行ノ日ヨリ子ハ父又ハ母ノ親權ニ服スルモノニシテ後見人ノ任務ハ終了スルモノトス(民八七七條参照)(明治三十一年十月十三日同同年十一月十四日民刑第一八四二號回答)

第七十三條 裁判所ハ民法施行前ニ生シタル事實ニ據リテ親權又ハ管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

第七十四條 民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者ノ後見人タル者アルトキハ其後見人ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ其任務ヲ行フ

〔回答〕

○明治六年大政官布告第二十八號ニ依リ後見人ヲ付シタル未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者アルトキハ其後見人ノ任務ハ民法ノ施行ニ依リテ終了シ(新法ニ依リ任務終了ノ届出ヲ爲シ)又親權ヲ行フ者ナキトキハ後見人ハ民法施行法第七十四條ニ依リ引續キ其任務ヲ行フヘキモノトス此場合ニ於テハ後見人就職ノ届出ヲ爲スニ及ハス(明治三十一年八月一日同同年同月二十日民刑第八五二號回答)

○父母又ハ其一方ヲ有スル未成年者ノ後見人ハ民法施行法第七十四條ニ當ルモノノミナラズ(明治三十一年十一月二十九日同同年十二月二十一日民刑第二二六八號回答)

第七十五條 民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者カ後見人ヲ有セサルトキハ民法ニ定メタル者其後見人ト爲ル

第七十六條 民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタル者アル場合ニ於テ後見人其他民法第七條ニ掲ケタル者ノ請求ニ因リ禁治産ノ宣告アリタルトキハ後見人ハ其宣告ノ時ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ後見人ノ任務ヲ行ヒ準禁治産ノ宣告アリタルトキハ保佐人ノ任務ヲ行フ

第七十七條 民法施行前ニ未成年又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ掲ケタル原因ニ非サル事由ノ爲

メニ選任シタル後見人ノ任務ハ民法施行ノ日ヨリ終了ス未成年者ノ後見人又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ選任シタル後見人カ民法第九百八條ニ該當スルトキ亦同シ

〔回答〕

○實母ヲ有スル未成年者ニシテ民法施行前ニ於テ親族ノ協議ニ依リ他ニ後見人ヲ選定シタルモノアルトキハ其後見人ノ職務ハ民法施行ト同時ニ消滅スルモノトス(明治三十一年八月九日何同年同月二十日民刑第一〇〇號回答)
○民法施行法第七十七條ニ依レハ未成年ノ事由ノ爲メニ民法施行前ニ選定シタル後見人ハ其任務ヲ繼續スヘキ旨ニテ同法第七十四條ニ依レハ民法第九百條ノ場合ニ於テノ後見人ハ其任務ヲ行フモノト解釋シ得ラル然ラハ親權ヲ行フモノアル場合ニハ民法施行前選定シタル後見人ハ同法施行ノ日ヨリ自然任務ヲ終了シタルモノト看做スヘキモノトス(明治三十一年七月十八日何同年八月二日民刑第六二八號回答)
○親權ヲ行フ者アル未成年者ノ後見人ハ民法施行ノ日ヨリ其資格ノ消滅シタルモノトス(明治三十一年八月一日何同年同月三十一日民刑第九〇六號回答)

第七十八條 民法第九百三十七條及ヒ第九百四十條乃至第九百四十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十九條 第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ遲滯ナク親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得

第八十條 第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ遲滯ナク被後見人ノ財産ヲ調査シ其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス

民法第九百十七條第二項、第三項、第九百十八條及ヒ第九百十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

〔回答〕

○親權ヲ行フ者アル未成年者ノ後見人ノ任務ハ民法施行ノ日ヨリ當然終了スルニ付キ其後見人ヨリ新法ノ規定ニ依リ任務終了届出ヲ爲スヘク親權ヲ行フ者ナクシテ從前親族會ニ於テ選定セシ後見人ニ對シテハ民法施行ノ日ニ於テ後見監督人ヲ選定シ民法ニ定メタル後見人ノ職務ニ着手スヘク又未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ニ付キ後見ノ登記ヲ爲ササルハ勿論禁治產者ノ後見人ト雖モ民法施行前ニ既ニ後見ノ届出ヲ爲シタルモノニ付キテハ後見ノ登記ヲ爲スニ及ハス又親權ヲ行フ者ヲ除ク外未成年者及ヒ禁治產者ノ後見人ハ民法施行法第八十條ニ依リ財産ノ調査ニ着手スヘキモノトス(明治三十一年七月十九日何同年八月八日民刑第八三號回答)

第八十一條 民法九百二十四條及ヒ第九百二十七條ノ規定ハ後見人カ第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ其任務ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條 民法第九百三十條ノ規定ハ後見人カ民法施行前ニ被後見人ノ財産又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十條 後見人カ民法施行前ヨリ被後見人ノ財産ヲ賃借セルトキハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ招集シタル親族會ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス若シ親族會カ同意ヲ爲ササリシトキハ賃借借ハ其效力ヲ失フ

第六章 相續編ニ關スル規定

第八十四條 民法施行前ニ民法第九百六十九條及ヒ第九百九十七條ニ掲ケタル行爲ヲ爲シタルモノト雖モ相續ハタルコトヲ得ス

第八十五條 民法第九百七十四條及ヒ第九百九十五條ノ規定ハ相續人タルヘキ者カ民法施行前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十六條 相續人廢除ノ原因タル事實カ民法施行前ニ生シタルトキト雖モ廢除ノ請求ヲ爲スコト

ヲ得
第八十七條・相續人廢除ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ廢除シタル相續人ニモ亦之ヲ適用ス

〔回答〕

○民法施行前ニ廢除シタル者ト雖モ民法施行法第八十七條ニ依リ廢除ノ取消ヲ爲スニ非サレハ相續權ナク廢除ノ當時相續人ニ定メタル者家督相續人タルニ付キ廢除シタル者ハ婚姻其他ニ依リ他家ニ入ルコトヲ得ヘシ但廢除ノ取消ヲ爲シタルトキハ別ニ指定ノ取消ヲ爲ササルモ指定ハ其效力ヲ失フヘシ(明治三十二年六月六日 伺同年同月廿三日 民刑第一〇三〇號 回答)

第八十八條 家督相續人指定ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ指定シタル家督相續人ニモ亦之ヲ適用ス

第八十九條 民法第九百八十九條ノ規定ハ民法施行前ニ前戸主ノ債權者ト爲リタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第九十條 民法第七七條及ヒ第七八條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ適用ス
第九十一條 相續ノ承認拋棄及ヒ財産ノ分離ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル相續ニハ之ヲ適用セス

第九十二條 相續人曠缺ノ場合ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル相續ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第九十三條 相續財産ノ管理人カ民法第五十七條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ同法第千

五十八條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
第九十四條 遺言ノ成立及ヒ取消ニ付テハ其當時ノ法律ヲ適用シ其效力ニ付テハ遺言者ノ死亡ノ時ノ法律ヲ適用ス

第九十五條 民法第千三百三十二條乃至第千三百三十六條及ヒ第千三百三十八條乃至第千四百四十五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ適用ス

〔參照〕

(法律第十一號民法施行法九條其他ニ依リ廢止セラレタル法令)

明治五年(十月二日)第二百九十五號布告ハ人身賣買ヲ禁シ 諸奉公人年限ヲ定メ藝妓ヲ解放シ之ニ附キテノ貸借訴訟ハ取上ケサル件(同六年一月十八日)第二十一號布告ハ妻ニアラサル婦女分焼ノ兒子ハ私生ト爲シ其婦女ノ引受タラシムル件(同年一月廿二日)第二十八號布告ハ華士族家督相續ノ件(同年二月七日)第四十號布告ハ貸金銀利息ノ制ヲ改メ雙方示談ノ上證文ニ記載セシムル件(同年五月十五日)第六十二號布告ハ夫婦ノ際已ムテ得サル事故アリテ其離婚ヲ請フモ夫之ナ背セサルトキハ出訴スルヲ許ス件(同年五月二十八日)第七十七號布告ハ脱籍並ニ行衛知レサル者八十歳ヲ過クレハ除籍スルノ件(同年七月十七日)第二百五十二號布告ハ負債ニテ身代限ノ者ハ貸金銀其他義務ヲ得ヘキ者定約期限未滿内ノ分處置振ノ件(同年七月四日)第二十七號布告ハ預金銀證書中封印ノ儘預リ或ハ使用セサルノ明文ナキモノハ出訴ノ節貸金同様裁判セシムル件(同八年一月二十日)第六號布告ハ民法裁判上負債者失踪後ノ訴訟成例改正ノ件(同年四月二十日)第六十三號布告ハ金銀其他借用證書ニ數名連印中失踪又ハ死亡シ相續人ナキトキ償却方ノ件(同九年五月二十日)第七十五號布告ハ合家ヲ禁止シ從前合家セシ分取扱方ノ件(同年七月六日)第九十九號布告ハ金銀等借用證書讓渡ノ節書換ヘシムル件(同十年七月七日)第五十號布告ハ諸證書ノ姓名ハ自書シ實印ヲ押サシムル等ノ件(同十五年十二月二十八日)第七十三號布告ハ無能力者、法律ニ定メタル代人及民事擔當人ノ件(同十七年六月十日)第廿號布告ハ單身戶主死亡又ハ除籍者絶家胡限ノ件(同十六年一月十七日)第十八號布告地所賃入書入規則第十一條ハ「地所ハ勿論地券ノミタリトモ外國人ハ賃買賃入書入等致シ金子請取又ハ借受候儀一切不相成候事(同十年九月十一日)第六十六號布告利息制限法第三條ハ「法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高チ定メサルトキ裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ拘ラヌ百分ノ六(六分)トス」トノ件ナリ

民法施行法

本法第十四條ニ掲ケル明治十三年(七月十七日)第三十六號布告刑法第十條第三號、第三十五條、第三十六條、第五十五條中、
(同十四年十二月十九日)第六十七號布告刑法附則第四十一條(同年十二月二十八日)陸軍刑法第十八條第四號、第三十二條中
及海軍刑法第九條第四號、第二十二條ノ削除ハ禁治産ニ關スル權ナリ
刑法附則第五十四條乃至第六十條ハ賠償處分ニ關スル件ナリ

民法施行法終

明治三十六年十一月四日印刷
明治三十六年十一月廿八日發行

定價金壹圓
止製二十錢増

編纂者 福田一覺

宮城縣陸前國志田郡古川町字三田町八十七番地

發行者 中島節

東京市神田區表神保町七番地平民

印刷者 天野耕一

東京市京橋區三十間堀二丁目一番地

印刷所 明教社

東京市京橋區三十間堀二丁目一番地

東京市神田區表神保町七番地

發行所

進化堂書店



大賣所

東京市神田區一ツ橋通町
有斐閣書房
 同市同區裏神保町
明法堂
 同市同區表神保町
修學堂
 同市同區今川小路二丁目
清水書店
 同市同區雄子町
岡崎屋
 同市本郷區本郷一丁目
有終閣
 大坂市東區備後町四丁目
吉岡書店

法律顧問

内務大臣法律顧問 藤田鳴鶴
 法務大臣法律顧問 清水瀧太郎
 此書は日及人開百餘の諸種の法文を以て、
 起る事柄を目安として、
 凡そ本書を精かに読めば、
 凡そ本書を精かに読めば、
 凡そ本書を精かに読めば、

此書は日及人開百餘の諸種の法文を以て、
 起る事柄を目安として、
 凡そ本書を精かに読めば、
 凡そ本書を精かに読めば、
 凡そ本書を精かに読めば、

民法講義

小澤博士に乞ひて本書を出版し、
 示し初學者を以て、
 若くは、
 若くは、
 若くは、

菊大判七百頁
 正價金一圓五十錢
 郵税金十錢
 土製金二十錢
 郵税金十錢

發行所

東京市神田區表神保町七番地

修學堂

大賣捌所

東京市神田區一ツ橋通町
 有斐閣書房
 同市同區表神保町
 明法堂
 同市同區表神保町
 修學堂
 同市同區今川小路二丁目
 清水書店
 同市同區椎子町
 會社岡崎屋
 同市本郷區本郷一丁目
 有終閣
 大阪市東區備後町四丁目
 吉岡書店

法律顧問

内務次官法學士辯護士鈴木充美君校閱
 法學士辯護士清水鐵太郎君著

此書は日々人間百般に起る事柄を目安として諸種の法文を一々叮嚀に問ひに對し、
 たひ本書を繙かは宛かも辯護士を座右に置いて萬事の顧問たるの思ひあり

五大法律學校講師法學博士小澤政許先生講述

民法講義

小澤博士に乞ふて本書を出版し力めて俗解を旨とし法理を説くに極て平易なる實例を擧げ且圖解を示し初學者をして讀て倦むなく愉快に克く民法の法理を知らしむるを期せり請ふ本書を繙て講師の苦心空しからず萬縁叢中紅一點の感あるを知れ

發行所

東京市神田區表神保町七番地

修學堂

菊大判七百頁
 正價金一圓五十錢
 郵税金十錢
 上製金一圓七十錢
 郵税金十八錢

紙數千百餘頁
 定價金八十五錢
 郵税金十一錢
 製本文字入一圓十錢
 郵税金十六錢

詳密なる説明を以て答へたり故に一

前大審院長 三好退藏君題辭
 檢事正 澁川長教君題辭
 大學生 鶴澤總明君序文
 法學士 辯護士 櫻井熊太郎君序文
 日本法律 今村力三郎君校閱
 學校卒業生 高橋宮二君著

法律文例 註釋付

菊版洋裝美本
 正價金六十錢
 郵税金 十錢

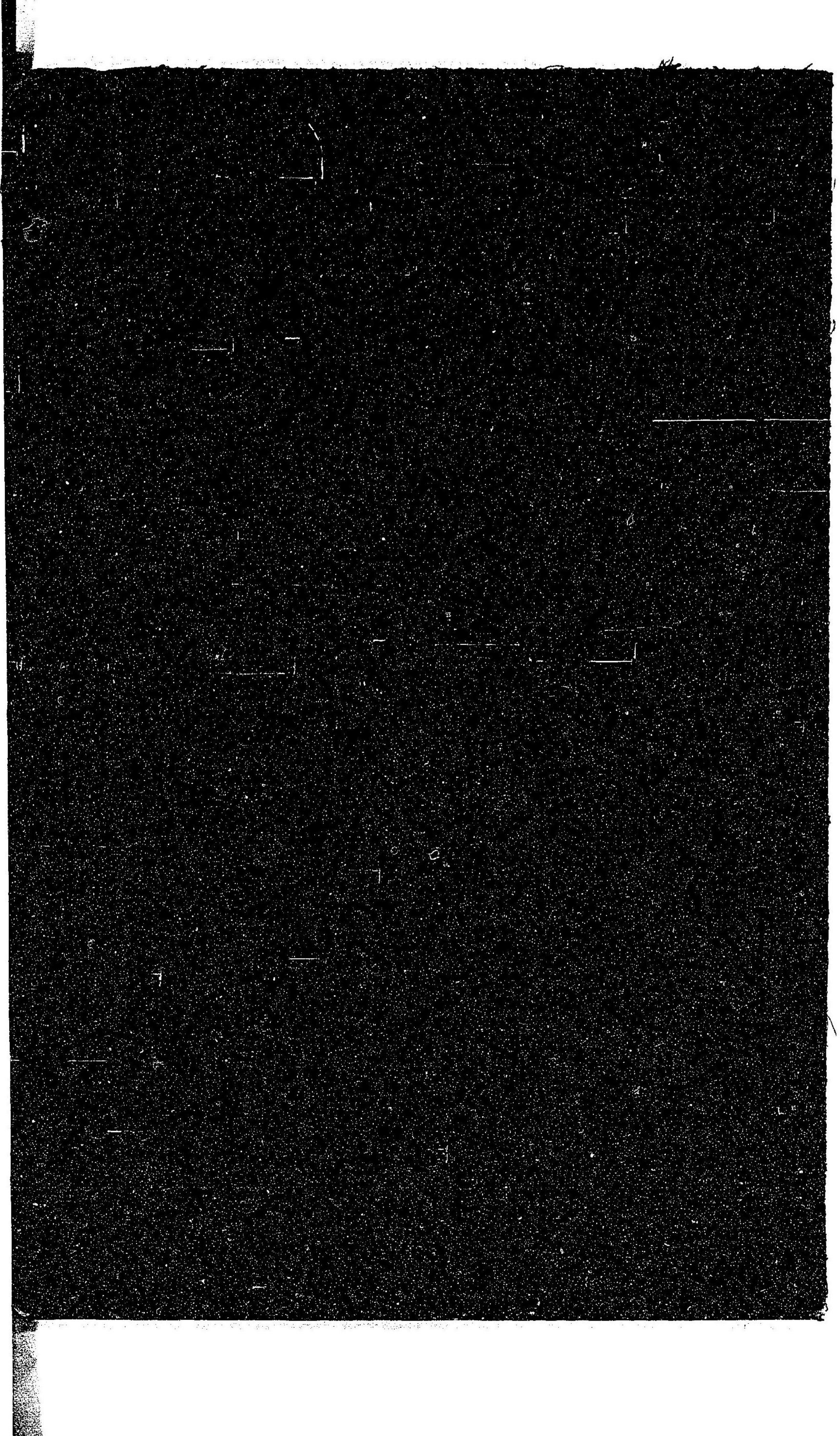
本書は著者か多年法律事務實務に當り得たる現行規則の文例を蒐集せられたるものにして其民事たる
 と刑事たると商事たると將人事非訟事件不動産商業登記雜種の契約書其他の事項たるを不問尙
 も事法律に基因する書式文例は殆んど網羅して遺す所なし故に平常法律を以て職とするものは勿論
 法律に通せざる者と雖も一度本書を繕かは忽ちにして法律の手續を理解することを得べく眞に法律
 運用上の指針盤として得易からざる良書なりとす乞ふ法治國の民人たる諸子幸に本書を座右に備へ
 伸擲の術を得賜はんことを

發行所

東京神田區表神保町七番地

修學堂

319
26



119

26

禁電子式複写

036561-000-5

CZ-2811-08

大審院判例, 同指令訓令, 諸法令摘録, 民法実用法典

福田 一寛/編

M36

BBR-0592

